

# アメリカにおける音楽科教師の職能開発に関する一考察

— ニューヨーク州とイリノイ州の免許資格制度構造と修士プログラムの比較を通して —

村島 唱子

(本講座大学院博士課程前期在学)

## I はじめに

わが国では、平成18年7月の中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」の中で、教員免許更新制の導入における基本的な考え方や具体的な内容が提言された。今後30時間程度の講習の受講を要件にして、教師は10年ごとに教員免許状を更新することが義務づけられた。これによって、終身免許状は廃止されることとなる。

歴史的に免許状の更新・上進制が主流であった先進国に、アメリカ合衆国（以下アメリカ）を挙げることができる。わが国における教師教育改革をめぐる諸議論では、諸外国の中でも特にアメリカの事例が頻繁に参照されてきた。アメリカでは、19世紀以来一貫して終身免許状廃止の方策が講じられてきた。終身免許状を発行しない州は、1940年15州、1967年23州、1995年には41州と増え続け、2005年現在では47州に及んでいる。終身免許状を発行する州は今後さらに減少し、なくなるのではないかと考えられる。

教員免許更新制が導入される日本およびすでに免許状の更新・上進制が主流であるアメリカの教師は、継続的な職能開発を行うことが求められる。そこで、本論文ではまず、教員免許制度について、終身免許状を発行しているニューヨーク州と、終身免許状を発行することなく一定期間ごとの更新義務を課した免許状を発行しているイリノイ州の2州を取り上げ、資格と教師教育の対応を明らかにする。さらに、各州の教員免許状取得および更新要件として教師に求められる職能開発の1つである修士号取得に関して、州立大学における音楽科修士プログラムを概観し、音楽科教師の職能開発の現状について整理したいと考える。なお、大学の音楽科修士プログラムについては、音楽教育学専攻の修士号を与えるプログラムのみを取り上げることとする。

## II 教員免許制度

### 1 免許状の種類と取得要件

ニューヨーク州とイリノイ州における教員免許制度について、免許状の種類と取得要件を表1にまとめた。

ニューヨーク州では、まず、学士号取得、一定の教職コース修了、最終試験合格によって5年間有効であるが更新不可能の初期免許状（Initial certificate）が発行される。初期免許状保持者は、修士号取得、3年間の教職経験、1年間のメンター指導の経験の要件を満たすことで正規教員免許状（Professional certificate）を取得することが求められる。正規教員免許状は終身有効だが、5年ごとに175時間の職能開発活動を行う必要がある。職能開発活動は、州の教育基準を満たすこと、生徒の学業成績に反映されること、教師のニーズに適合していることといった、教師や地方の要望に基づいて計画されている。

一方、イリノイ州では、一定の教職プログラム修了によって5年間有効であるが更新不可能の初期免許状（Initial certificate）が発行される。そして、4年間の教職経験と多様な職能開発のうちいずれかを選択することによって5年間有効の正規教員免許状（Standard certificate）を取得しなければならない。さらに、NBPTS（National Board for Professional Teaching Standard）資格証を取得した教師に対しては、10年間有効の専修免許状（Master certificate）が発行される。

表1 免許状の種類と取得要件

州	免許状の種類	取得要件、有効期限
ニューヨーク	初期免許状 (Initial certificate)	学士号取得、一定の教職コース修了、最終試験合格によって発行。5年間有効で更新不可。
	正規教員免許状 (Professional certificate)	修士号取得、3年間の教職経験、1年間のメンター指導の経験を要件にして取得可能。終身有効。5年ごとに175時間の職能開発活動(学区職能開発計画に沿う)を行う。
イリノイ	初期免許状 (Initial certificate)	一定の教職プログラム修了によって発行。5年間有効で更新不可。
	正規教員免許状 (Standard certificate)	4年間の教職経験と <b>上級学位取得</b> 、あるいは教授評価に関する4学期時間分の大学院講義履修などの要件のうち、いずれかを選択し取得することが可能。5年間有効。 5年以内に下記の職能開発のうち1つ、または大学の講義履修と継続的職能開発活動(Continuing Professional Development Units、以下CPDU)を組み合わせた活動の要件を満たすことで更新可能。 ・ <b>上級学位取得</b> ・NBPTS 資格証課程 ・教育関連プログラム(8学期時間分の大学院講義履修) ・CPDUの活動(全27の活動から任意で選択) ・NBPTS 資格証を取得するための準備プログラム(4学期時間の大学院講義履修) など
	専修免許状 (Master certificate)	NBPTS 資格証を取得すると発行。10年間有効。更新要件は正規教員免許状のものと同じ。

(各州教育局HPより筆者作成)

…教員免許状取得および更新要件として修士号を求めるもの

イリノイ州は職能開発活動の1つとして、CPDUを登用している。CPDUとは、実地研究、スタッフ開発プログラム、カリキュラム編成、新任教師教育研修プログラム、教育実習生への指導、ワークショップ、セミナーなど、幅広い活動の参加に対して単位を与えるために、継続的職能開発において利用される測定単位である。1CPDUは、ワークショップやセミナー、会議において費やす1時間に相当する。イリノイ州において正規教員免許状を保持する教師が職能開発としてCPDUを選択する場合、5年間で120CPDU分の職能開発活動を行う必要がある。修士号、博士号、専修免許状などに相当する学位または免許状を保持する教師は、CPDUの活動時間の短縮が認められている(表2参照)。

表2 イリノイ州における教師の職業的立場と必要CPDU数

教師	5年間のCPDU数	1学期あたり必要CPDU数
上級学位、上級免許状を保持していない教師	120	12
修士号保持者	80	8
教育専門家、博士号保持者	40	4
NBPTS 資格証、専修免許状保持者	10年間で40	2

(イリノイ州教育局Continuing Professional Development Units (CPDU) より筆者作成)

NBPTSは独立した非営利の組織で、1987年にアメリカ教育省と私的団体によって設立され、63名(大多数は教師)の委員によって運営されている。州免許状の基準資格を超えた一定の基準を満たし、かつ経験豊かで卓越した指導性のある教師に、専門職の認定として任意的に資格証を与えている。教師の提出するポートフォリオ、生徒の活動記録、ビデオテープから、学級経営や生徒の学習状況を徹底的に分析し評価する。さらに、専門教科に対する知識の深さ、教科指導への理解を紙面によって徹底的に調査する。この資格証は学士号を保持し3年の教職経験を有する者であれば誰でも申し込むことが可能である。NBPTS

が音楽科教師を資格証の対象として認定するようになったのは1994年からである。表3に示すように、音楽科教師に対するNBPTS資格証は、教える子どもの年齢によって2つのレベルに分かれている。イリノイ州はNBPTS資格証を取得することによって専修免許状を有することが可能となる。ニューヨーク州では、NBPTS資格証を有する教師は追加的な教育の要件を満たすことなしに資格証と同等な称号のニューヨーク州教員免許状を取得できる。つまりEarly and Middle Childhood（3～12歳）における音楽科のNBPTS資格証を有する教師は、ニューヨーク州における音楽科教員免許状（Pre K-12）の取得が可能となる。このように、NBPTSの基準を教員免許制度にそのまま導入する州や、修正しつつ取り入れている州が存在する。

表3 音楽科教師に対するNBPTS資格証

レベル	資格内容
・ Early and Middle Childhood (3～12歳)	3～12歳の子どもに音楽を教える教師、あらゆる学校音楽科カリキュラムに精通し、合唱、器楽、あるいは一般音楽において高度な専門的知識を有する教師に与えられる。この資格証を申し込む際に、吹奏楽、合唱、オーケストラの領域から1つ選択しなければならない。
・ Early Adolescence through Young Adulthood (11～18歳)	11～18歳の生徒に教える教師、あらゆる学校音楽科カリキュラムに精通し、合唱、器楽、あるいは一般音楽において高度な専門的知識を有する教師に与えられる。

(“National Board for Professional Teaching Standard”、NBPTS Music Standardsより筆者作成)

## 2 ニューヨーク州とイリノイ州の教員免許制度における音楽科教員免許状

ニューヨーク州とイリノイ州における音楽科教員免許状について、適用する学年と免許科目を表4にまとめた。

ニューヨーク州およびイリノイ州では、幼稚園から第12学年までを対象とする免許状を与えている。これは両州の義務教育期間の全学年に相当する。また、両州の音楽科教員免許状を有する教師は、州の免許基準に基づいて全学年の音楽全般を教えることが認められている。

表4 音楽科教員免許状の学年と免許科目

州	学年	免許科目
ニューヨーク	Pre K-12 (全学年)	音楽全般
イリノイ	K-12 (全学年)	音楽全般

(各州教育局HPより筆者作成)

## 3 ニューヨーク州とイリノイ州の教員免許制度における共通点

教員免許状の資格制度について、両州は次の4点で共通した特徴が見られた。

第1に、最初に教員免許状として発行される初期免許状は5年間有効であり更新不可であることである。教師は次の上級資格である正規教員免許状を必ず取得する必要がある。

第2に、年数は州によって異なるが、正規教員免許状取得のために教職経験を求められることである。

第3に、資格制度と結びついて、教師は継続的な職能開発が求められることである。教師は多様な職能開発活動を行いながら、正規教員免許状を更新あるいは維持していかなければならない。

第4に、教員免許状の更新・上進および取得要件の1つとして修士号取得が求められることである。

## Ⅲ 州立大学大学院における学位と修士プログラム比較

教員免許状の更新・上進および取得要件の1つとして修士号取得が求められることから、ニューヨーク州とイリノイ州の州立大学大学院における音楽科修士プログラムを概観していく。

### 1 大学院における学位－音楽教育学専攻－

#### (1) ニューヨーク州立大学 (State University of New York)

ニューヨーク州立大学は全部で64のキャンパスを有する。そのうち、以下2校において音楽教育学の修

士号を与えている。ニューヨーク州立大学は、①と②の両校で必須科目として修士論文を課すプログラムと課さないプログラムの2つのプログラムを提供している。

#### ①フレドニア校音楽学部

音楽教育学を主専攻とする学生は、修士号として「Master of Music in Music Education」を取得することができる。音楽教育学専攻における修士プログラムは、より高い水準の教育を提供し、ニューヨーク州における正規教員免許状取得に必要となる学歴を与える。

30または36単位を取得する2つのプログラムに分かれ、フレドニア校は現職教師を対象としたプログラムが存在することが特徴である（表5参照）。

表5 フレドニア校修士プログラム内容

名称（単位数）	内容
「最終プロジェクトプログラム」 (30単位)	修士論文、作曲／編曲、演奏リサイタルの3つの中から1つ選択し、最終プロジェクトとする。選択において、演奏部門のファカルティ（教授群）または音楽教育学部委員会から承認を得る必要がある。 大学院での追加的な研究を希望する学生に用意されたプロジェクトであり、興味・関心のある特定の分野において研磨するように計画されている。
「現職プログラム」(36単位)	教師を対象とし、「最終プロジェクトプログラム」のようなある専門分野に特化し集中した科目ではなく、より広範な授業科目を選択できるよう計画されている。教師一人ひとりの個人差や教育的立場をかんがみ、教師の特定のニーズに応えられるよう、幅広く、柔軟性のある内容となっている。また、開設された科目の中で、バランスよく選択することができる。

（フレドニア校HPより筆者作成）

#### ②ポツダム校クレーン音楽学校

音楽教育学を主専攻とする学生は「Master of Music」の学位を取得する。修士プログラムは、学生の興味・関心、ニーズ、要求を満たすよう計画され、ニューヨーク州における音楽科正規教員免許状取得に必要な学歴を与える。音楽教育学部門は、修士論文を課す30単位プログラムと修士論文を課さない36単位プログラムが存在する。この36単位プログラムについて、フレドニア校のように厳密に現職教師を対象とするプログラムであるか否かについては言及されていない。

### (2) イリノイ州の州立大学

イリノイ州の州立大学としてイリノイ大学が挙げられるが、当該校は全部で3キャンパスを有しており、大学院において音楽教育学専攻の修士号「Master of Music Education」を与えているのはアーバナ・シャンペーン校のみである。さらに、イリノイ州の州立大学で、イリノイ大学同様イリノイ州における音楽科正規教員免許状（K-12）取得に必要な学歴を与えるノーザンイリノイ大学音楽学部も取り上げることにする。

#### ①イリノイ大学（University of Illinois）アーバナ・シャンペーン校音楽学部

イリノイ大学は全部で3キャンパスを有しており、アーバナとシャンペーンにまたがっているキャンパスに本部を置いている。大学院において音楽教育学専攻の修士号「Master of Music Education」を与えているのはアーバナ・シャンペーン校のみである。合唱、一般音楽、器楽（管楽器、打楽器、弦楽器）のいずれかに主眼をおいた音楽教育学専攻で修士課程、博士課程（Ed.D.、Ph.D.）をもつ。ここでは、イリノイ州における音楽科正規教員免許状取得に必要な学歴を与える。

#### ②ノーザンイリノイ大学（Northern Illinois University）音楽学部

音楽教育学専攻の修士号「Master of Music」を取得することができる。ここでも、イリノイ州における音楽科正規教員免許状取得に必要な学歴を与える。

## 2 修士プログラム

ニューヨーク州とイリノイ州の州立大学における音楽科修士プログラム要件を表6～表11にまとめた。網掛けをしている部分は、プログラム要件における教育学科目を示している。また、プログラム要件における教育学科目単位数の割合を表12に示した。

(1) ニューヨーク州立大学

①フレドニア校音楽学部

表6 フレドニア校音楽学部「最終プロジェクトプログラム」

プログラム内容・要件		単位数
1. 必修	コア・カリキュラム	
	音楽目録	3
	分析技術	3
	音楽教育学、関連科目	
	音楽教育学基礎Ⅰ	3
	音楽教育学基礎Ⅱ	3
音楽教育学基礎Ⅲ	3	
	最終プロジェクト（修士論文/最終プロジェクト）	3
2. 選択	音楽教育学、または関連科目	3
	音楽理論、音楽史、音楽作品、パフォーマンス	3
	音楽理論、音楽史、音楽作品、パフォーマンス、特別研究	6
総取得単位数		30 単位

(フレドニア校HP学生便覧より筆者作成)

表7 フレドニア校音楽学部「現職プログラム」

プログラム内容・要件		単位数
1. 必修	コア・カリキュラム	
	音楽目録	3
	分析技術	3
	音楽教育学、関連科目	
	音楽教育学基礎Ⅰ	3
	音楽教育学基礎Ⅱ	3
	音楽教育学基礎Ⅲ	3
2. 選択	音楽教育学、または関連科目	3
	音楽理論、音楽史、音楽作品、パフォーマンス	6
	音楽理論、音楽史、音楽作品、パフォーマンス、特別研究	9
総取得単位数		36 単位

(フレドニア校HP学生便覧より筆者作成)

<音楽教育学専攻「Master of Music in Music Education」プログラム要件>

- ・最低取得単位数 30 単位（「最終プロジェクトプログラム」、36 単位（「現職プログラム」）
- ・平均 3.0 以上の成績
- ・修了の際に総合最終試験（comprehensive final examinations）

②ポツダム校クレーン音楽学校

表8 ポツダム校クレーン音楽学校30単位プログラム

プログラム内容・要件		単位数
1. 必修	学校教育における音楽カリキュラム開発	3
	音楽教育における哲学、課題	3
	研究概論	3
	修士論文/研究プロジェクト	3
2. 選択	教育分野	3
	音楽教育	3
	音楽史/音楽作品	3
	音楽理論	3
	選択	6
総取得単位数		30 単位

(ポツダム校HP学生便覧より筆者作成)

表9 ポツダム校クレーン音楽学校36単位プログラム

プログラム内容・要件		単位数
1. 必修	学校教育における音楽カリキュラム開発	3
	音楽教育における哲学、課題	3
	研究概論	3
2. 選択	音楽史/音楽作品	3
	音楽理論	3
	選択	12
	教育または音楽教育科目	6
総取得単位数		36 単位

(ポツダム校HP学生便覧より筆者作成)

<音楽教育学専攻「Master of Music」プログラム要件>

- ・最低取得単位数 30 単位、36 単位
- ・平均 3.0 以上の成績
- ・6 年以内に全単位を取りそろえる
- ・36 単位プログラムにおいて、修了の際に筆記による資格認定試験と最終口頭試験

## (2) イリノイ州の州立大学

### ①イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校

<音楽教育学専攻「Master of Music Education」プログラム要件>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・最低取得単位数 32 単位</li> <li>・平均 3.0 以上の成績</li> </ul>
---

表10 アーバナ・シャンペーン校音楽学部

プログラム内容・要件		単位数
1. 必須	音楽教育における研究概論	4
	音楽教育におけるカリキュラム原理	4
2. 選択	合唱／一般音楽／器楽	6
	教育心理学から選択 (音楽教育におけるテスト・評価に関するもの／音楽心理学を含む)	4
	教育行政から選択 (音楽教育における管理／高等教育における音楽を含む)	4
	個人レッスン／音楽理論／作曲／音楽学／民族音楽学／アンサンブル／指揮／音楽作品	10
	最終研究プロジェクト (自由選択)	4
最低取得単位数 32 単位		

(アーバナ・シャンペーン校HP学生便覧より筆者作成)

### ②ノーザンイリノイ大学音楽学部

<音楽教育学専攻「Master of Music」プログラム要件>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・最低取得単位数 32 単位 (専攻共通必須科目の 13 単位、音楽教育学科目 19 単位)</li> <li>・平均 2.5 以上の成績</li> <li>・6 年以内に全単位を取りそろえる</li> </ul>
--

表11 ノーザンイリノイ大学音楽学部

プログラム内容・要件		単位数
1. 13 単位必須科目		
必須	音楽における研究の技術／音楽教育セミナー	3
	リサイタル、修士論文、作曲、プロジェクト	4
選択	音楽史	3
	音楽理論	3
2. 19 単位必須科目		
必須	音楽教育における基礎	3
選択	音楽教育科目	6~9
	音楽演奏、鍵盤楽器、声楽、器楽研究、指揮、アンサンブル	3
	選択	4~7
総取得単位数		32 単位

(ノーザンイリノイ大学HP学生便覧より筆者作成)

## (3) 両州の州立大学修士プログラム比較

ニューヨーク州立大学は2校間で似たプログラム内容になっており、修士論文を必須科目として課さないプログラム(フレドニア校の「現職プログラム」、ボツダム校の「36単位プログラム」)が存在することが特徴である。30単位取得を要件とするプログラムに比べて36単位取得を要件とするプログラムは選択科目単位数が多く、開設された授業の中で、自身のニーズに従って柔軟に選択することができる。また、表12に示すプログラム要件における教育学科目の単位数の割合をみると、2校は同じ値を占めている。30単位取得を要件とするプログラムと36単位取得を要件とするプログラムを比べると、36単位取得を要件とするプログラムの教育学科目の割合が若干高い。このことから、ニューヨーク州立大学において、現職教師は36単位取得を要件とするプログラムを受講することを通して、音楽教育に関する高度な専門的知識を有することが求められていると考えられる。

一方、イリノイ州の州立大学は同一大学でないためか、必要単位数が共通である以外、2校で特に似たような傾向は見られなかった。イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校においては、教育学の単位数が約5~7割を占めており、他大学に比べて圧倒的に高い割合となった。イリノイ大学のプログラム要件には、ノーザンイリノイ大学のプログラムにある「選択」の要件がなく、教育心理学や教育行政といった授業が

ら選択するなど、制限がある。すなわち、音楽の知識だけでなく教育全般に対する専門性を有した教師の育成が行われていると考えられる。さらに、修士論文も自由選択であり、より現場に即した授業科目が開設されているといえる。

表12 プログラム要件における教育学科目単位数の割合

大学名		割合(%)	
ニューヨーク州立大学	フレドニア校音楽学部	「最終プロジェクトプログラム」	40
		「現職プログラム」	42
	ポツダム校音楽学部	「30単位プログラム」	40
		「36単位プログラム」	42
イリノイ州の州立大学	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校音楽学部	50～69	
	ノーザンイリノイ大学音楽学部	38～47	

### 3 カリキュラム内容（授業科目）の比較・分析

各大学の開設科目について内容を参照し、「教育学」、「内容技法」、「理論」の3つの領域で大別した。内容の分からないものを不明とした。さらに、教育学を「教授法：一般音楽・音楽」、「教授法：実技」、「教授法：教材」、「教授法：実践」、「理論」の5つに分けてそれぞれの割合を調べた。1つの科目で多領域にまたがっている内容の科目は、それぞれの領域で1つとみなした。

#### (1) ニューヨーク州立大学

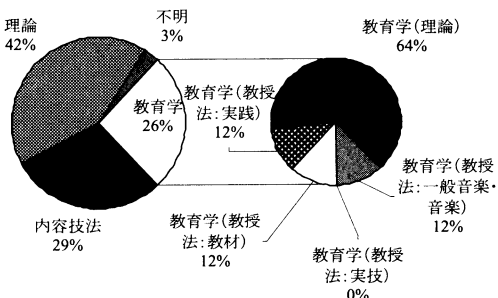


図1 フレドニア校開設科目（科目数：55）

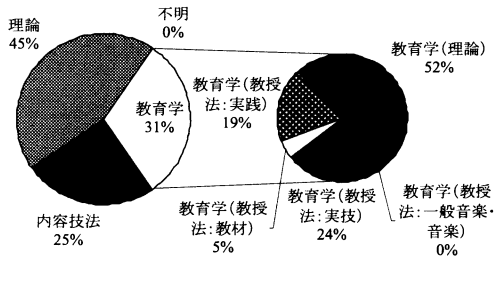


図2 ポツダム校開設科目（科目数：54）

表13 ニューヨーク州立大学開設科目における対象と科目群

大学名	対象	科目群
フレドニア校	院生	・音楽教育学科目群（15）
		・音楽科目群（40）
ポツダム校	院生	・音楽教育学科目群（18）
		・音楽史・音楽作品科目群（15）
		・パフォーマンス科目群（10）
		・音楽理論科目群（9）

#### (2) イリノイ州の州立大学

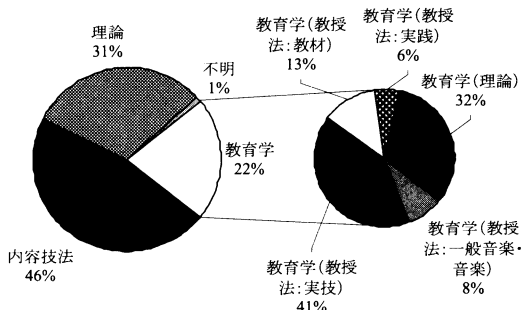


図3 アーバナ・シャンペーン校開設科目（科目数：287）

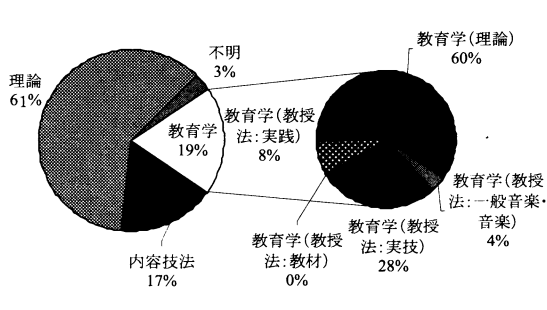


図4 ノーザンイリノイ大学開設科目（科目数：123）

表14 イリノイ州の州立大学開設科目における対象と科目群

大学名	対象	科目群
アーバナ・シャンペーン校	学部生と院生	・音楽科目群 (287)
ノーザンイリノイ大学	院生	・音楽教育学科目群 (23) ・器楽科目群 (23) ・声楽科目群 (4) ・鍵盤楽器科目群 (7) ・指揮科目群 (3) ・パフォーマンス科目群 (7) ・音楽理論と作曲科目群 (23) ・音楽史と音楽作品科目群 (28) ・音楽科目群 (5)

### (3) カリキュラム内容の比較

ニューヨーク州立大学における開設科目の領域別割合は、2校でほとんど差がない。開設科目数もフレドニア校55、ポツダム校54とほぼ同数である。両校における開設科目は院生のみを対象にしており、開設科目の割合は「理論」領域の占める割合が他領域に比べて高いが、「教育学」、「内容技法」、「理論」の3領域のバランスが良く、幅広い分野の授業が開設されているといえる。教育学の内訳をみると、「理論」の占める割合が2校ともに最も高いが、その他4領域の割合は2校で差がみられた。ポツダム校では「教授法：実技」に関する授業は開設されているが、フレドニア校では開設されていない。「教授法：実践」領域においても、フレドニア校に比べてポツダム校の割合が若干高くなっている。このことについて、開設科目の科目群(表13参照)を見ると、ポツダム校は音楽科目が詳細に分かれており、その中でもパフォーマンス科目群が設置されていることから、「教授法：実技」および「教授法：実践」に特化した授業科目が開設され、その割合が高くなったのではないかと考えられる。一方、フレドニア校で開設されている「教授法：一般音楽・音楽」に関する授業は、ポツダム校では開設されていない。2校において、開講されていない授業科目が存在していることは興味深い結果である。これらのことから、フレドニア校では高度な専門的知識を有する一般音楽および音楽の教師の育成が行われており、ポツダム校は音楽専門科目の教授と音楽教育の専門性を有する教師、すなわち理論と実践の結びついた高度な教師の育成が行われていると考えられる。

イリノイ州の州立大学における修士プログラムは開設科目数が多いことが特徴である。しかし、同一大学でないためか領域の割合は2校でずいぶん差がある。イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校の修士プログラムにおける開設科目は学部生と院生の両方を対象としており、プログラム要件における教育学科目の割合が約7割を占めていたものの(表12参照)、開設科目における「教育学」領域の割合は3領域で最も低く、「内容技法」領域が高い割合となった。一方、ノーザンイリノイ大学の開設科目は院生を対象としており、「理論」領域の割合が非常に高い。さらに、教育学の内訳をみると、ノーザンイリノイ大学では「教授法：教材」に関する授業は開設されておらず、「理論」領域が大部分を占めている。開設科目の対象が、学部生と院生の両方であるか、あるいは院生であるかによって、「理論」と「内容技法」の割合に差が出ると考えられる。これらのことから、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校は、音楽科教師に対して実技教授の専門性を有することを求めており、ノーザンイリノイ大学では、研究志向の強い高度な専門知識を有する教師の育成が行われていると考えられる。

また、上記のことから、院生を対象とした授業科目のなかで、教育学領域において開講されていない授業科目が存在していることが分かった。フレドニア校の「教授法：実技」、ポツダム校の「教授法：一般音楽・音楽」、ノーザンイリノイ大学の「教授法：教材」がそうである。教師はニーズを満たし、自身の職能を向上させることのできるプログラムが計画された大学を積極的に選択する必要がある。

## 4 まとめ

ニューヨーク州立大学修士プログラムの分析を通して、ニューヨーク州立大学のフレドニア校とポツダム校の2校ともに、現職教師は音楽教育に関する高度な専門的知識を有することが求められていると考えられた。カリキュラムの分析においても、開設科目の割合は「理論」領域(教育学「理論」を含む)の占



める割合が他領域に比べて高い結果となり、修士プログラムの受講を通して、音楽および音楽教育に関する高度な知識を有することを求めるプログラム内容を満たしている。

一方、イリノイ州の州立大学は、同一大学でないためか、プログラム内容も開設科目の領域割合も2校でずいぶん異なっている。イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校では、修士プログラムの分析を通して、音楽の知識・技能だけでなく教育全般に対する専門性を有した教師の育成が行われていると考えられた。しかし、カリキュラム分析では、「内容技法」領域の割合が高くなり、教育の専門性よりも、音楽科教師に対して実技の習熟や実技教授の専門性を有することを求めていると考えられたのである。このことについて、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校の修士プログラム要件における教育学科目の割合は約5～7割を占めているため、開設された授業科目は実技の習熟や実技教授の専門性を求める授業が多く開設されているものの、修士プログラムを受講する音楽科教師はそれらの授業を受講できるわけではない、という制限があることがうかがえる。ノーザンイリノイ大学は、カリキュラムの分析において、開設科目の割合は「理論」領域（教育学「理論」を含む）の占める割合が他領域に比べて高い結果となり、研究志向の強い高度な専門知識を有する教師の育成が行われているといえる。

#### IV おわりに

教員免許状制度に関して、終身有効な免許状発行の有無によらず、教員免許状の有効期限や資格と結びついて教師に職能開発活動が求められることなど、2州に共通した特徴が見られた。さらに、州立大学における音楽科修士プログラムに関しては、同州の州立大学間で修士号取得に必要な単位数が同数であることや、同一大学キャンパス間において開設科目の領域は偏りがあるということが明らかになった。研究志向の強い教師、音楽教育の専門性を有する教師、実技教授の専門性を有する教師など、対象とする教師や求める教師像が各大学で異なっていると考えられる。すなわち同大学キャンパス間、同州の州立大学間で役割が分担されているといえる。教師は自身の職能を向上させるために、目標を達成するようなプログラムが計画された大学を積極的に選択する必要がある。

今後は音楽科教師の職能開発として行われる活動の内容について、全米音楽教育者協会（The National Association of Music Education：MENC）や各州の音楽教育者協会（Music Educators Association）の提供する研修プログラムの内容を明らかにしながら、アメリカの音楽科教師の職能開発についてさらに探究したい。

#### 参考文献

- ・加治佐哲也『アメリカの学校指導養成プログラム』多賀出版、2005
- ・榎原仁美「アメリカ合衆国における音楽科教員免許制度に関する研究：1980年代の教育改革を通して」『音楽文化教育学研究紀要XVI』、2004、pp.163-179
- ・榎原仁美「アメリカ合衆国における音楽科教員免許制度に関する研究－教員免許、及び教員資格制度の改革を通して－」広島大学大学院教育学研究科修士論文、2005
- ・榎原仁美「アメリカ合衆国における音楽科教員免許制度に関する研究：NBPTSの全米音楽科教師資格証の成立をとおして」『音楽文化教育学研究紀要XVII』、2005、pp.87-94
- ・“National Board for Professional Teaching Standard”、*NBPTS Music Standards*、2001、pp.7-43
- ・佐久間亜紀「アメリカの教師養成制度の現状と問題点－日米比較の観点から－」『研究年報』第1集、東京学芸大学教員養成カリキュラムセンター、2002、pp.7-29
- ・八尾坂修『アメリカ合衆国教員免許制度の研究』、風間書房、1998
- ・八尾坂修「学校評価と教員のクオリティ向上」『CS研レポート』第46巻、啓林館、2002、pp.22-29

#### 参考web資料

- ・The Crane School of Music（ニューヨーク州立大学ポツダム校クレーン音楽学校HP）  
<http://www.potsdam.edu/content.php?contentID=9EA76712E23D1E5B0288AEED34EB6F99>
- ・Illinois State Board of Education（イリノイ州教育局HP）  
<http://www.isbe.state.il.us/>

- 「今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）2（3）」（平成18年7月11日 中央教育審議会）文部科学省  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/06071910/010.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/06071910/010.htm)
- NYU DOE：Home Page（ニューヨーク州教育局HP）  
<http://schools.nyc.gov/default.aspx>
- School of Music Home Page、SUNY Fredonia（ニューヨーク州立大学フレドニア校音楽学部HP）  
<http://www.fredonia.edu/som/>
- School of Music－NIU（ノーザンイリノイ大学音楽学部HP）  
<http://www.niu.edu/music/>
- 中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会（第28回）議事録・配付資料〔資料3〕  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/gijiroku/002/05020401/002.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/gijiroku/002/05020401/002.htm)
- UI－School of Music：Home.（イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校音楽学部HP）  
<http://www.music.uiuc.edu/home.php>